

前回いただいたご意見に対する区の考え方(フィードバック)

番号	年月	会議	委員名	外部評価意見	対応方針	分類	予算措置 (①②の場合記載)
1	R元.9	市民協働部会	辻本委員	中学生被災地訪問で防災意識の向上を目指すのもよいと思うが、非常時に具体的なかたちで中学生にも手助けしてもらえるように、ボランティア登録をお願いしたい。	当区では、中学校の土曜授業などを活用して、地域役員や地域防災リーダーのご協力もいただきながら、防災訓練を実施しています。今後とも地域と中学生をつなぐような取り組みを進めてまいります。 ボランティア登録については、他都市の状況などを踏まえて、学校をはじめ関係機関と検討してまいります。	③	—
2	R元.9	市民協働部会	丹羽委員	千葉県では台風で大規模な停電が発生したが、一部の地域だけが被災した場合は備蓄用品は供給されるのか？町会単位で対応しないといけないのか？	備蓄物資の提供については、基本的には、大規模な災害が発生した場合に提供する想定とはなっておりますが、個別、被害の状況等を把握したうえで対応いたします。	⑤	—
3	R元.9	市民協働部会	安達委員	吉野地域では地区防災計画を策定中だが、町会加入者が少ないので計画通りの連合の防災活動を行うのは難しい。各町会の防災の取り組みが必要ではないかと考えている。	地区防災計画では、連合振興町会の自主防災組織の役割等を定めていただきますが、発災時には、ご指摘のとおり、まずは、自助・共助、町会レベルでの避難、安否確認が大切ですので、その点に配慮して啓発に努めてまいります。	⑤	—
4	R元.9	市民協働部会	丹羽委員	少しでも防災意識を向上させるため、区民まつりなど大勢の人が集まる場で、警戒レベルによる行動基準に関するチラシ等を配布したほうがよいのではないかと？	今年の区民まつり(10月20日開催)において、防災ブースにて警戒レベルによる行動基準に関するチラシをはじめ、各種啓発チラシや啓発物品を配布いたしました。	①	—
5	R元.9	市民協働部会	安田委員	災害時の避難所について、地震なら学校、台風ならコミュニティセンターとなっているが、とりあえず学校に向かう住民が多いと思われるので、周知を徹底した方がよいのではないかと？	コミュニティセンターに自主避難所を開設する場合には、小学校にコミュニティセンターが避難所である旨、掲示いたします。 また、全地域でご了承いただければ、広報紙、ホームページなどで周知してまいります。	①	—
6	R元.9	市民協働部会	峰松委員	昨年度の台風時に、一時避難所を開設し、区役所とは情報共有したものの、学校への連絡を忘れていたことが反省点として残っている。災害時に関係機関で情報共有できる連絡体制が必要ではないかと？	区役所としても、自主避難所を開設する場合には、地域や学校など関係機関との情報共有に努めてまいります。	①	—
7	R元.9	市民協働部会	石津委員	海老江5丁目の交差点で信号無視が原因の交通事故が多い。小学生も通り、危険なので対策をしてほしい。	ご要望について、福島警察署に確認したところ、「当該交差点については、大阪府警本部交通規制課が調査・検討を進めています。」とのことでした。 具体的な対策等は現在のところ未定ですが、引続き警察との情報共有に努めます。	⑤	—

8	R元.9	市民協働部会	川股委員	野田地域の避難場所は細い道を通るのでわかりづらい。また、地域住民全員を収容できる余裕がないので、中央卸売市場を災害時の避難場所として活用できないか？	と要望について、大阪市中央卸売市場に確認したところ、「中央卸売市場は市民等消費者に安全安心な生鮮食料品流通の安定供給を果たす使命があり、災害時においてもこの使命を果たすため、流通機能の回復が優先されることから、避難物資等を備蓄する災害時避難所とさせていただくことは出来ません。」とのことでした。 なお、大阪市中央卸売市場では、近畿管内の他の中央卸売市場とも「災害時における生鮮食料品等の供給協力等相互応援に関する協定」を締結して、災害時における生鮮食料品等の供給に対応できるように常に備えているとのことです。 その他、市場内の建物につきましては、地震発生等に伴う津波発生の際には、一時的に避難していただけるよう「津波避難ビル」として登録しており、地域で実施される避難訓練等でも、市場棟3F以上の場所への移動訓練等も行っているとのことですので、ご理解をお願いしたいとのことでした。	④	—
9	R元.9	保健福祉・総務部会	堀野委員	「安心して住み続けるために」のリーフレットについて、あまり情報が多いと高齢者にはわかりづらいと考える。 福島区地域包括支援センターが高齢者の相談窓口として最適であると考えられるので、同センターの認知度を上げるためにも、問い合わせ先は同センター一つに絞ってわかりやすく広報した方がよいのではないかと？	高齢者の方の相談窓口として、幅広い内容についてまとめて聞く場合や該当する制度がよくわからない場合には包括支援センターは最適だと思いますので、今回のリーフレットでは、包括支援センターの連絡先を左上の見やすい場所に記載するとともに、個別の問題に関して詳しく聞きたい方のためにも、一番最適な個別の相談窓口も記載いたしました。 今後、高齢者の方への情報伝達の際には、いただいたご意見も踏まえ、より利便性の高い情報発信に努めてまいります。	②	—
10	R元.9	保健福祉・総務部会	片岡委員	区民まつりやもちつきなど、区や地域の行事について、特に若い世代の住民の関心が薄いとを感じる。世代間交流ができる機会を作ってほしい。	地域活動の活性化のためには、担い手の確保も含めて、若い世代の住民の事業参加・参画は重要な課題と認識しております。 現在、まちづくりセンター主催で、地域活動との関わりが薄い若年層(30歳代)に焦点をあてた交流事業(令和2年1月開催)を計画中で、区役所も参加の呼びかけ等情報発信に努めてまいります。 今後とも、つながりが実感できるように各世代に着目した行事や全世代が参加できる行事への積極的な参加・参画の促進について、引き続き、各地域活動協議会と連携・協力していくとともに、若い世代への情報発信ではSNS等の活用が不可欠であるため、区役所や地域から積極的な発信ができるよう取り組んでまいります。	①	—
11	R元.9	保健福祉・総務部会	本郷委員	・区政会議は意見が言いづらいと感じる。もっと少人数で、特に興味のある分野で意見交換ができる場を設けてほしい。 ・また、区政会議に関するアンケートを書く時間が短いため、会議中に書くこととなり、集中して話を聞くことができない。アンケートを記載する時間をもう少し考えてほしい。	当区といたしましても、ご指摘の点について、以前より課題としてとらえており、平成30年度より、少人数による座談会形式での意見交換の場として「ラウンドテーブル」を開催しているところです。今後も引き続き、少しでも発言しやすい環境づくりに取り組んでまいります。 また、アンケートについては、会議中に委員の皆様に一斉にご記入いただく時間を確保しておりますが、時間が足りない場合はアンケートをお持ち帰りいただき、後日ご提出いただく等の対応もさせていただきますので、職員までお申し出ください。	②	—

12	R元.9	保健福祉・総務部会	川村委員	JR東西線新福島駅について、東側出入口にはエレベーターが設置されているが、西側には階段しかない。 高齢者など足が不自由な場合には東側を経由しないといけないので、人によってかなりの負担になる。 JCHO大阪病院の最寄り出口でもあるので、西側にもエレベーターを設置してほしい。	ご要望について、西日本旅客鉄道株式会社を確認したところ、「バリアフリー化に関しては、バリアフリー法(バリアフリー整備ガイドライン)に基づき、国や地方自治体の協力を得ながら順次計画的に整備を進めているものの、現在のところ、新福島駅におけるご要望に沿える具体的なバリアフリー化の計画はございません。」とのことでした。	④	—
13	R元.9	保健福祉・総務部会	西澤委員	災害時の備蓄物品として、液体ミルクが便利だと聞いた。福島区でも購入してほしい。	大阪市と民間会社において、発災時には液体ミルクも含めて食料品などを供給していただく協定は締結しております。 液体ミルクは賞味期限が1年又は6か月と短いことから、区役所として備蓄することは困難と考えております。 各ご家庭で、「ローリングストック」しながら備蓄していただきますよう、よろしくお願いいたします。	④	—

※分類

①当年度(令和元年度)において対応 ②令和2年度運営方針に反映または令和2年度に対応予定

定

③令和2年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可

⑤その他